
第 142 回関西スペイン語教授法ワークショップ(TADESKA) 開催の報告

CXLII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai

日時:2021 年 3 月 11 日(木)14:00 -16:00

場所:Zoom を利用したオンライン開催

テーマ「遠隔授業の実践—データベース作成と考察—」

参加人数:15 名

* Fecha y hora: Jueves, 11 de marzo de 2020, de 14:00 a 16:00

* Reunión On-Line con el sistema Zoom

* Tema: “Prácticas docentes a distancia: Elaboración de una base de datos y reflexiones”

* Participantes: 15 personas

2 月 22 日に実施した「第 12 回関西スペイン語教師の集い」では、2020 年度に教員たちが実践した遠隔授業の内容をデータベースとして集約する作業を行い、その暫定版を用いて話し合いを行った。

今回の例会では、2 月に出席できなかったメンバーのデータが追加された中で、次のような内容で作業や話し合いを行った。

- 1) データベースの更新（追加と修正）作業
- 2) データベースに加えた若干の改良、公開に向けた今後の予定のお知らせ
- 3) 参加者が自分の実践例を紹介し、それについて質疑応答やコメントを行う。

会の前半では、参加者全員で 1) 2)を行い、後半では 2 つのグループに分かれ、片方ではデータベース作成についての話し合い、もう片方では 3)の話し合いを行った。これらの話し合いの内容は記録していない。

これらの話し合いや作業に際しては、Google スプレッドシート（データベース暫定版）のコメント権限を参加者に付与しており、前回に続き、参加者がデータ提供者に質問やコメントを書き込めるようにした。

データベースについては、1)記入のしやすさ、2) 操作のしやすさ、3) データのわかりやすさを追求しながら手探りで進めてきているので、2 月および 3 月という 2 回の試用機会およびそれを通しての参加者の感想・提案等を通して、徐々に作り上げられていく感触を得られている。最初から完全なものを設計してみなさんに参加を呼びかける方が、データは集まりやすかっただろう。しかし、参加者のみなさんと一緒に話し合い、

作業をしながら、まさに実践感覚を共有しながらデータベースを作り上げていくことで、時間はかかるが手応えを感じている。激動の2020年度の最後に、様々な状況で各教員が工夫し奮闘した経験を分かち合うことで、前向きな気持ちで次年度に迎えることができそうだ。

3月例会後に、世話役は、データベースの内容を整理してフォーマットをほぼ確定し、また、スペイン語の説明を加え、TADESKAの他のメンバーやGIDEなど他のスペイン語教員にも参加を呼びかけた。

(報告者：小川雅美)